

48. 石灰乳胆汁の1例

高西喜重郎, 笠井妥陵, 峯村善保
飯沼 克博, 熊谷信夫

(県立須坂)

石灰乳胆汁は稀な疾患で、当院における過去30年間の胆石症手術例564例中2例約0.4%であった。成因として①胆のう管の閉塞機転②慢性胆のう炎とそれに伴う③胆汁のアルカリ性変化が考えられているが、当院における2症例とも胆のう管への結石嵌頓と病理学的に慢性胆のう炎を認めた。赤外線吸収スペクトルによる結石分析では2症例とも炭酸カルシウム、Aragonite型であり、また1例の胆汁 pH は8.5とアルカリ性を示した。

49. 総胆管及び肝内結石を合併した先天性胆道拡張症の1例

小山隆史, 武野良仁 (日産玉川)

先天性胆道拡張症は本邦に好発する胆道疾患であり、胆道癌、胆石症等の発生母地として注目されている疾患である。今回我々は肝内外に結石症を合併した1例を経験した。

症例は40歳女性で、10年前に胆嚢摘出術及び胆管嚢腫空腸吻合術をうけていたが、今回は本症及び肝内外結石症の根治術として総胆管切除兼 Roux-en-Y 胆管空腸吻合術及び肝左葉外側区域切除術を施行し、良好な結果を得ているので報告する。

50. 当院における肝内結石症の検討

遠藤文夫, 小幡五郎 (松戸市立)

松戸市立病院における過去12年間の肝内結石症14例を報告した。結石部位では、I型及びL型が多かった。胆管系の変化で分類し、肝内外胆管無狭窄型には主に胆汁トレナージと病変の左葉限局型には肝切除を、右葉限局型及び両葉型には胆管空腸吻合術を行った。現在では限局型には肝切除を主に考えているが、予後不良例から術前の胆管検索及び肝切除範囲の決定の重要性が示唆された。

51. 胆摘後の逆流性胆管炎に対する手術の工夫

若山芳彦, 岩瀬亀夫, 小谷野勝治
(柏戸病院)
菅野 勇 (帝京大・病理)

胆嚢摘出術の逆流性胆管炎3例に対し、若干の工夫を加え良好な手術成績を得た。手術のポイントは、胆道系

に手を加えず、胃幽門部粘膜剥去、胃 $\frac{2}{3}$ 切除、トライツ靱帯より30cm以上遠位の空腸と残胃の ρ 吻合、空腸・空腸吻合は端側吻合し更に3~4針縫い上げることである。前回手術による癒着剥離は最小限でよく、門脈、肝動脈等の副損物の危険がなく安全性が高い。術後逆流性胆管炎は1例も発症していない。

52. 開心術後、自家血輸血の検討

安田典夫, 香 西 襄, 渡辺 寛
芝入正雄, 宇津見和郎 (松戸市立)

開心術126例について人工心肺内に残った血液を術後輸血した自家血輸血群とそれをしなかった非自家血輸血群に分けて比較検討を行なった。輸血量は両群それぞれ平均2400ml, 3410mlで自家血群で有意に少なく、肝炎発生率も9.3%15.9%と自家血群で低い傾向にあった。術後 GPT Ht は自家血群で低かったが、Ht は30%以上であった。Cr, BUN に有意差はなかった。術後の自家血輸血は大きな副作用もなく、肝炎発生率を低下させる方法の一つと考える。

53. 超低体温循環停止の実験的研究

林田直樹, 上村重明, 沖本光典
下山真彦, 村上 和
(千葉市立海浜)
中川康次 (千大)
福田康一郎 (千大・二生理)

ラットを用い、心肺同時移植モデル作成の手段として超低体温(20°C)循環停止(1時間)を施行した。5例中3例に心拍動の再開が得られた。心拍動の得られた3例は極度の代謝性アシドーシスを示した。また心拍動の再開が得られた3例中2例に胸郭の呼吸運動がみられた。出血の制御、胸腔内加温の施行、カウンター・ショックの利用などを用いれば、ラット心肺同時移植モデル作成の手段として超低体温循環停止法は有効である。

54. 生後9日で Jateue 手術を施行した TGA I 型の1例

中谷 充, 武内重康, 中島伸之
(国立循環器病センター)

生後9日の TGA I 型の女兒に対し、一期的に Jateue 手術(Lecompte 変法)を施行し、良好な結果であったので報告した。

手術手技、補助手段、術前・術後管理の向上により新生児期においても開心術を安全に行ないうるので、TGA I 型においては、LV mass, LV/RV 比が低下す